

桜 島

火山活動度レベル

レベル 2 (比較的静穏な噴火活動)で経過しました。

概 況

噴火¹⁾を 1 回観測し、爆発的噴火でした。B 型地震はやや多い状態が続いています。

・噴火活動の状況(表 1)

1 日 15 時 45 分に爆発的噴火を観測しました。体感空振や爆発音はなく、噴煙や噴石などは天候不良のため不明でした。

・噴煙活動の状況(図 2)

灰白色や乳白色の噴煙が時々観測され、最高高度は 25 日の 800m でした。

・降灰の状況(表 2、図 2、図 3)

鹿児島地方気象台における観測²⁾では、降灰はありませんでした。

・地震・微動活動の状況(表 3、図 2～4)

火山性地震は、B 型地震がやや多い状態が続いていますが、いずれもごく小規模なものでした。

火山性微動は 130 回とやや増加しましたが、ほとんどが継続時間 2 分未満の短いものでした。5 月の微動継続時間の合計は 111 分(4 月 58 分)でした。

・地殻変動の状況(図 6)

G P S 連続観測による地殻変動観測では、長期的に東西方向のわずかな伸びの傾向が続いています。

・火口や噴気地帯の状況(写真 1、2)

5 月 30 日に海上自衛隊鹿屋航空基地救難飛行隊の協力を得て、上空からの観測を実施しました。昭和火口付近では、噴気の量がやや増加し、白色の付着物も増えていました。南岳の火口内では、大きな変化はありませんでした。

1) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的な噴火もしくは一定規模以上の噴火の回数を計数しています。資料の噴火回数はこの回数を示します。

2) 鹿児島地方気象台(南岳の西南西、約 11km)における前日 09 時～当日 09 時に降った 1 m²あたりの総降灰量を観測しています。

震央分布図等の資料作成にあたっては、気象庁のデータの他、鹿児島大学、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを使用しています。また、地図の作成にあたっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の数値地図 50m メッシュ(標高)、25000 分の 1 の地形図を使用しています(承認番号:平 17 総使、第 503 号)

表 1 最近 1 年間の月別噴火回数(2005 年 6 月～2006 年 5 月)

2005～2006年	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
噴火回数	1	8	-	2	2	1	2	1	3	-	2	1
爆発的噴火	1	8	-	-	-	1	1	1	3		1	1
噴火日数	2	7	6	7	12	11	3	2	4	7	13	3

5 月 1 日に爆発的噴火が発生しました。
 噴火日数にはごく小規模の噴火も含まれる。

表 2 最近 1 年間の月別降灰量と降灰日数(2005 年 6 月～2006 年 5 月)

2005～2006年	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
降灰量(g/m ²)	0	-	-	2	0	1	-	-	-	-	-	-
降灰日数	1	-	-	2	5	1	-	-	-	-	-	-

5 月は、鹿児島地方気象台では降灰は観測されませんでした。
 「-」は降灰なし、「0」は 1 m²あたり 0.5 g/m²未満を表します。

表 3 最近 1 年間の地震・微動回数(B 点：2005 年 6 月～2006 年 5 月)

2005～2006年	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
地震回数	50	129	132	303	202	485	532	1128	586	1933	4136	2471
微動回数	0	29	2	5	0	2	21	12	13	16	73	130

5 月は、火山性地震がやや多い状態が続いていますが、そのほとんどはごく小規模な B 型地震でした。また、継続時間の短い微動がやや増加しました。

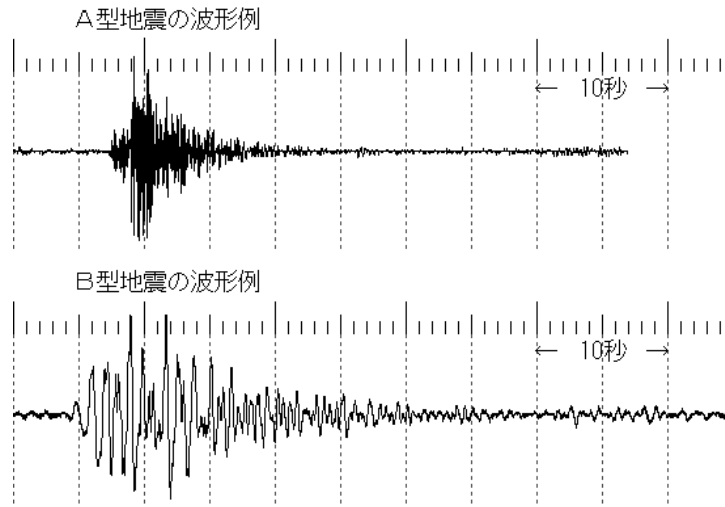


図 1 桜島における火山性 A 型地震と B 型地震の波形例

桜島で発生する火山性地震には、マグマの貫入に伴う火道周辺の岩盤破壊によって発生する、高周波で P・S 波が明瞭な A 型地震や、マグマが火道を上昇するときの柔らかい部分の破壊やマグマの発泡現象によって発生する、低周波の B 型地震などがあります。

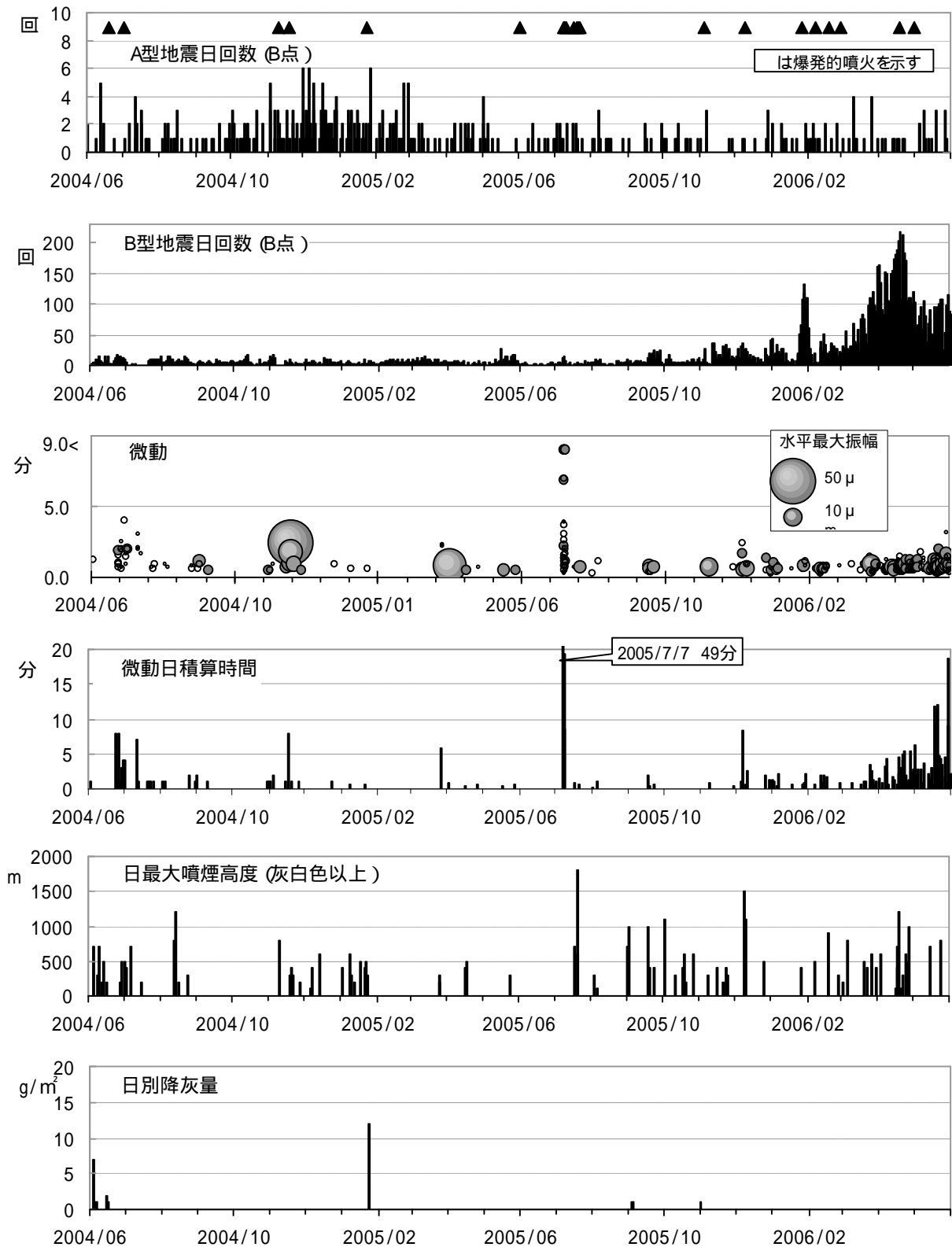


図2 最近2年間の火山活動経過図(2004年6月~2006年5月)
 火山性A型地震は、月合計で17回(4月は8回)観測しました。
 火山性B型地震は、月合計で2451回(4月は4127回)と先月よりやや減少しました。
 火山性微動は、月回数130回(継続時間合計111分)で、4月(73回、継続時間合計58分)より増加しましたが、ほとんどが継続時間2分未満の短いものでした。

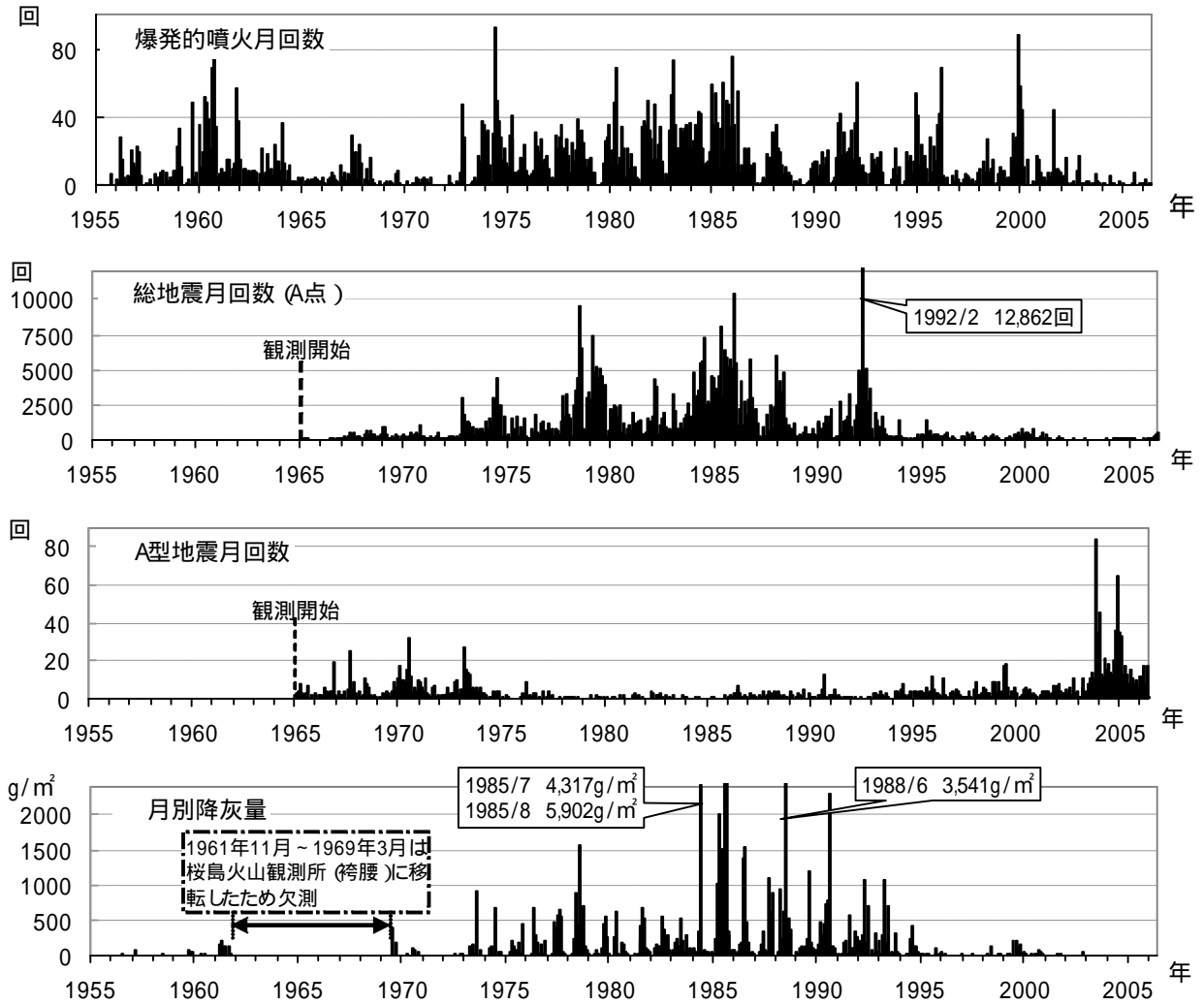


図3 長期の火山活動経過図(1955年1月～2006年5月)
爆発的噴火や火山性地震は、長期的には少ない傾向が続いています。

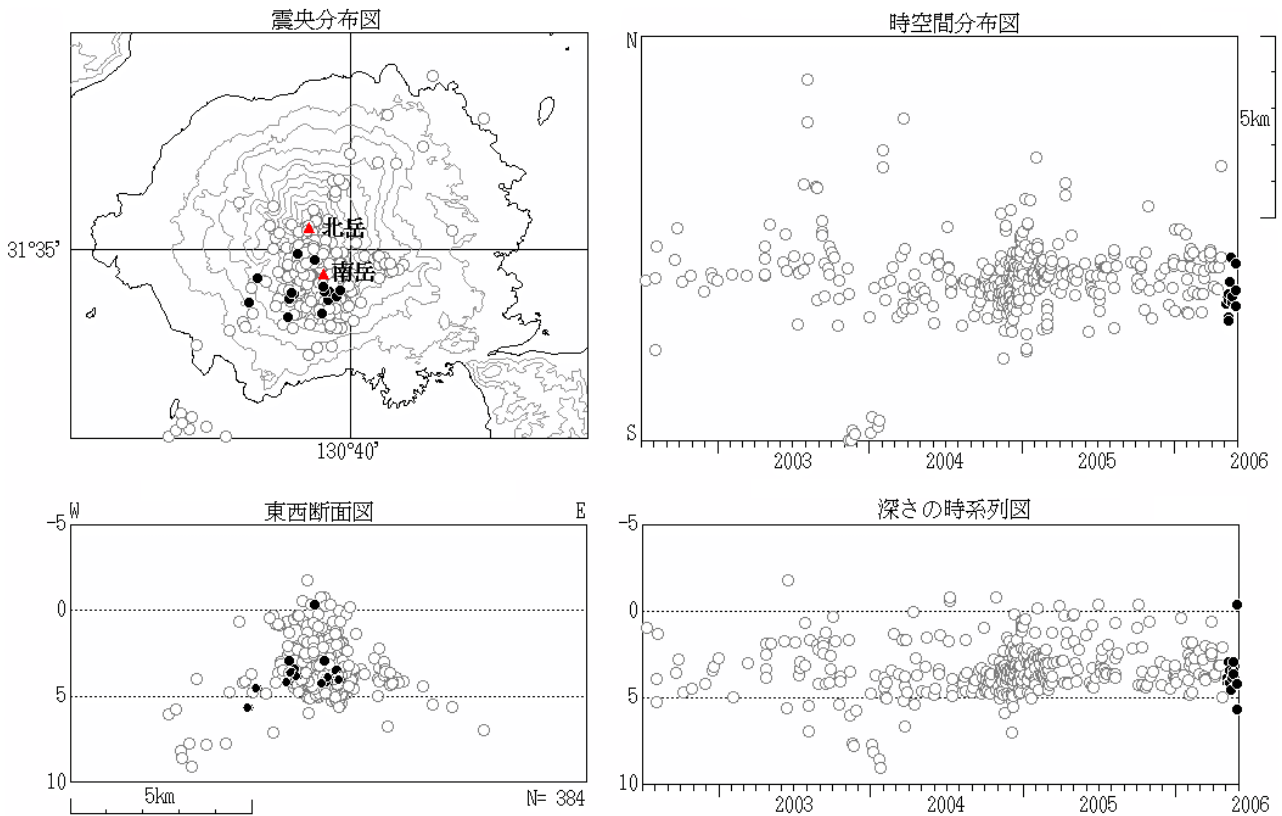


図4 火山性A型地震の震源分布図(2002年7月～2006年5月)

震源は南岳付近の海面下2～4kmに分布しました。

今期間の震源は黒丸で表示しています。

本資料は、気象庁データの他、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを用いて作成しています。本資料の地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を利用しています。

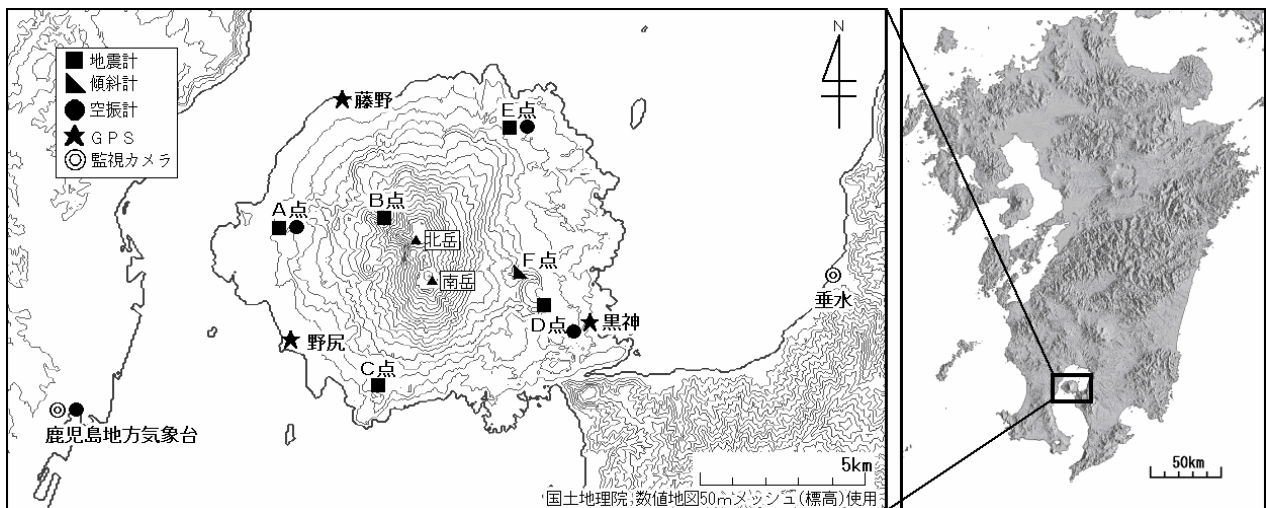
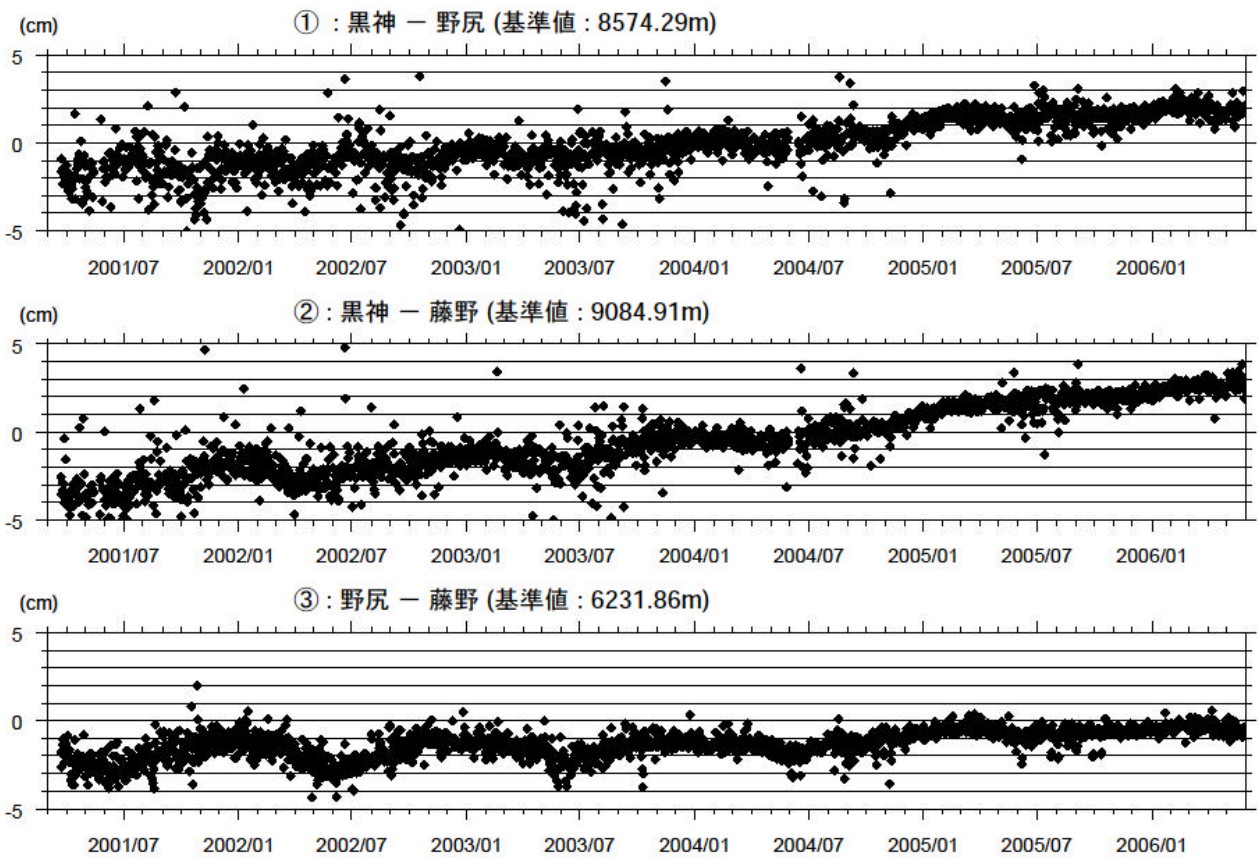


図5 桜島観測点配置図



基線長変化グラフの空白部分は欠測

図 6 GPS による基線長変化(2001 年 3 月 22 日 ~ 2006 年 5 月 31 日)
GPS 連続観測による観測では、長期的には東西方向にわずかな伸びの傾向が続いています。

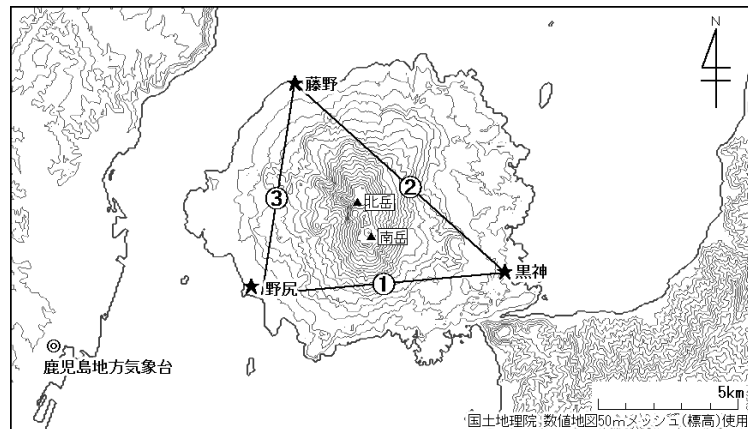


図 7 GPS 連続観測点と基線番号

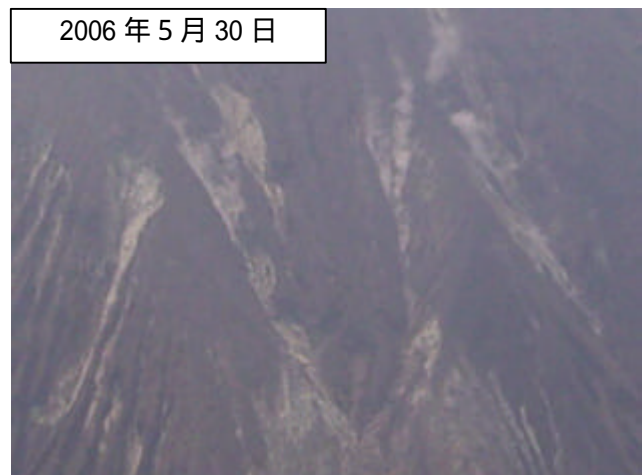
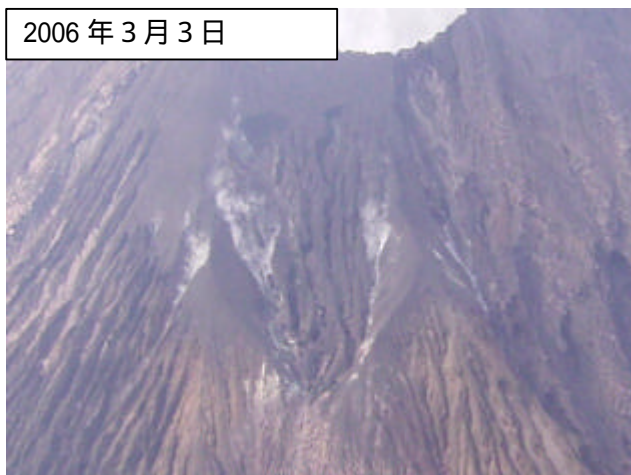
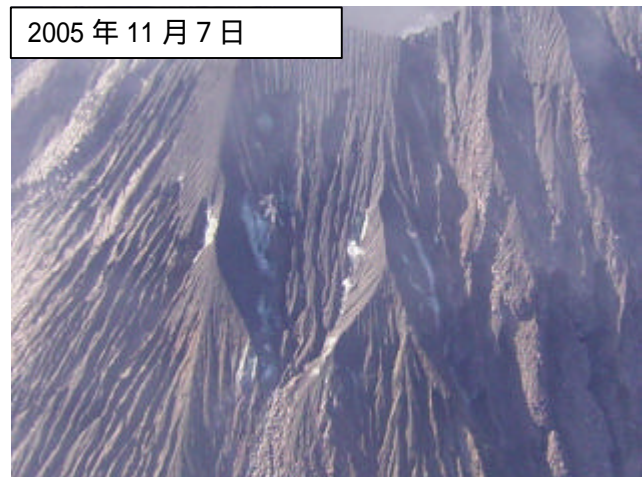
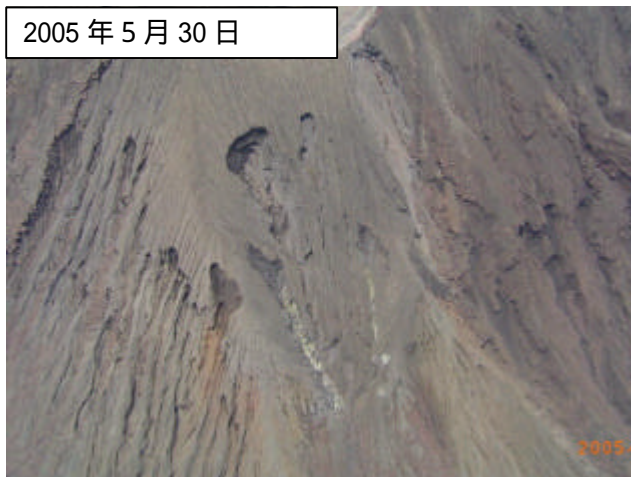


写真 1 昭和火口付近の様子 (2005 年 5 月～2006 年 5 月)

昭和火口付近では、この 1 年間で白色の付着物が増えています。また、噴気量もやや増加しています。

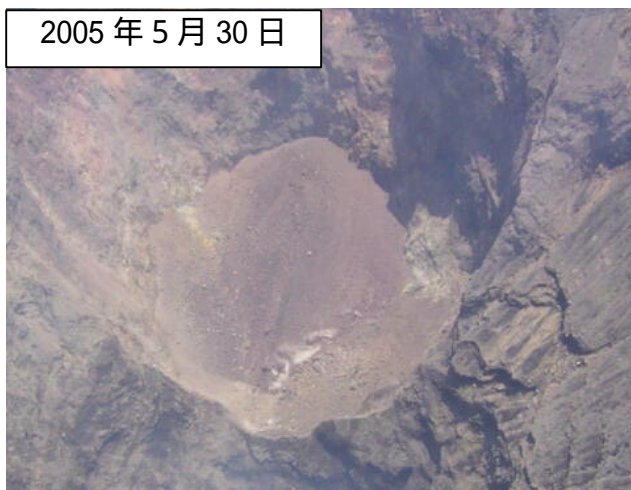


写真 2 南岳 B 火口内の堆積物の比較 (左：2005 年 5 月 30 日、右 2006 年 5 月 30 日)

昨年 5 月と比較すると、火口南東側(写真最奥部)がわずかに堆積物が増えている程度で、大きな変化は見られませんでした。

桜島の 6 月の状況 (6 月 7 日現在)

火山活動度レベル

レベル 2 (比較的静穏な噴火活動) で経過しています。

概 況

6 月 4 日に昭和火口 (南岳火口の東、約 500m) 付近でごく小規模の噴火が発生しました。南岳の A・B 火口の活動は特段の変化はありません。

・噴煙・噴火活動の状況

6 月 4 日に京都大学防災研究所附属火山活動研究センターから、「昭和火口付近から噴煙があがっているとの一般からの通報があり、13 時頃調査した結果、高さ 100 ~ 200m 程度のごく少量の有色噴煙が時々噴出しているのを確認した」との連絡が鹿児島地方気象台に入りました。気象台で現地調査を行なった結果、16 時頃昭和火口付近からごく少量の灰白色の噴煙が 5 ~ 10 分間隔であがっているのを確認しました。

昭和火口付近からのごく小規模の噴火は 5 日の朝までは確認できましたが、11 時におこなった現地観測や鹿児島県の協力を得て午後におこなった上空からの観測では、高さは 50 ~ 200m の白色・ごく少量の噴煙があがっており、有色噴煙の噴出はありませんでした。

6 日は、午前 9 時 25 分頃から 10 時 25 分頃までごく小規模の噴火を観測しました。

・地殻変動の状況

G P S 連続観測による地殻変動観測では、長期的に東西方向のわずかな伸びの傾向が続いていますが、今回の噴火に伴う変動は観測されていません。



図 8 桜島昭和火口位置図



写真3 6月4日11時25分頃
有村展望所から撮影
(鹿児島県立博物館 桑水流氏提供)



写真4 6月4日12時00分頃
黒神河原から撮影
(鹿児島県立博物館 桑水流氏提供)

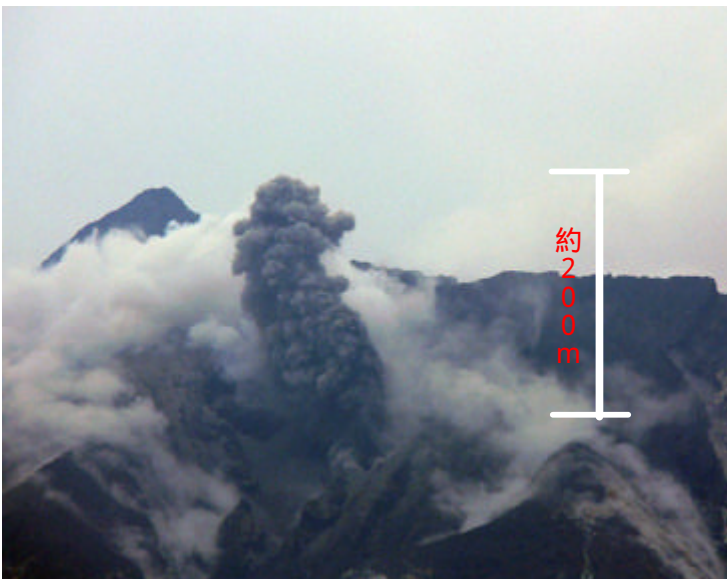


写真5 6月4日15時20分頃
(京都大学防災研究所附属火山活動研究センター提供)



写真6 6月4日16時30分頃
(現地観測で黒神河原から撮影)
ごく少量の灰白色の噴煙が5～10分
間隔であがっていました。



写真7 6月5日11時過ぎ
(現地観測で黒神河原から撮影)
噴煙は白色・ごく少量で高さは50～
200mに上がっていました。昭和火口付
近からの有色噴煙の噴出はありません
でした。



写真8 6月5日14時過ぎ
(鹿児島県の協力を得て、上空からの観
測で撮影)
噴煙は白色・ごく少量で高さは50～
200mに上がっていました。